



編集・発行 山見妙勢能報部
日蓮宗 豊能郡野間中
〒563-0132 大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

メンテナンス

新實信導

友人二人と一緒に自転車三台で坂道を下っていた。だんだんとスピードがあがってきたので、減速しようとしてハンドルのブレーキを握った。その時であった。ブレーキの留め具が折れ、ブレーキの取っ手が前輪のスポークに突き刺さり、急ブレーキがかかった。突然のことであつたが、気がつけば、中を舞っている自分があり、まるでスローモーションのようにゆっくりと時間が流れていく。どうにかしてアスファルトに怪我無く着地できないものかという思いで頭がいっぱいであつた。両手から着地でき、

軽い手首の捻挫ですんだ。今から四〇年前のまさかの出来事であつた。

自宅の隣には、廃品回収事業を営む小屋があり、おじさんが一人で廃品を分解し、金属類を売っていた。そのおじさんから、不要な自転車のハンドルやライトなどの部品を分けてもらい自分の自転車につけてカスタマイズしていた。ハンドルもいろんな形に付け替えたが、運転しづらくて元に戻したこともあつた。

この事故は、日頃のメンテナンスを怠っていた結果であつたかもしれない。自転車が目立つようになると目先の形にこだわり、本来、走る止まるという基本的な部分の確認が欠落していたの

である。不測の事態は、予測していなかった突然の出来事のこと、「不測」の「測」には「推し測る」という意味があり、それに打ち消しの「不」がつき「推し測れない」「予測できない」という意味になる。いつ起こるか分からない最悪の事態を考慮し備えることが大切であるが、なかなかそうは行かないのが日常である。しかし、この不測も

仏様から見れば必然の結果なのである。結果には必ず原因があり、事故には要因があつた筈である。何らかの原因でブレーキ部品に亀裂が入つたのを放置した自分原因があつたのではなにかと思う。年末は何かと気ぜわしい時期である。そういうときこそ、気を大きく持ち、焦らずゆっくりと行動して新年を迎えたいものである。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

衆生を

悪いのは

人間でしょうか 時でしょうか

愍れむが故に

おそろく二つがからみあい 世の中悪くなったのでは

悪世に生まれて

だから今こそ 目覚めねば 人間 ダメになるでしょう

広く此の経を

それを愍れむ菩薩たち

演ぶるなり

願つてこの世に

生まれ来て

『法師品第十』

私の教えを説くのです

「12月の主な行事」

- ★写経会 12日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(水)13時
- ★月例法要 22日(水)15時
- 12月の
清掃の日・星嶺演奏会・
茶論は中止します

「1月の行事予定」

- ☆正月歳始祈禱 1日〜15日
- ※歳始祈禱申込受付中です
- お問合せは事務所窓口へ
- ※新年の開運シールを授与
- ★書き初め写経会 9日(日)11時
- ★清掃の日 15日(土)11時〜12時
- ★月例祈願法要 15日(土)13時
- ★月例法要 22日(土)15時
- ★月例祈禱 22日(土)15時
- ◎折禱・ご回向等のお申し込みは郵便・FAX・メールでも受付けております
- ◎写経はご自宅でもできます
- ◎希望者はお申込み下さい
- ◎いずれの行事も社会情勢により変更する場合があります
- ◎出合いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- ◎登山カード押印は休止
- ◎昇堂時はマスク・人数制限等
- ◎感染防止にご協力下さい
- ◎送迎車の運行は、休止です
- 但し正月三ヶ日は奉賛会員専用シャトルバスあり
- ◆ケーブル&リフトは

12月5日まで毎日運行

釈尊成道会と父のご縁

詠裡庵

「お父さんは、お釈迦さまが成道された日に生まれたんだよ」

戦争中にこしらえたという、庭の中の菜園で種蒔きをしていた時の会話です。

成道とは、お釈迦さまが悟りを開いて仏になられたことをいいます。お釈迦さまはインドのブツダガヤという所で、菩提樹の木の下で禅定に入りついに悟りを開かれました。12月8日のことで、この日は成道会という法会が修されます。

この日は、仏教徒にとっではとても大切な日なのです。でもお釈迦様の誕生日（4月8日）ほどには知られていなくて、私たちの生活に溶け込んでいません。「ふうん」

と返事したものの、小学生だった私は特に興味を引くことはありませんでした。でも、お釈迦さまが悟り

を開かれたからこそ、仏教としてその教えが今に伝わっているのです。人は縁によってこの世に生まれ、縁によって生かされている、と言うのがその根幹となる教えだと言います。

大正の末、お釈迦さまの成道の日に生まれた父は太平洋戦争に徴収されました。が無事に帰ってきました。のち小学校の教員になり、母と結婚し三人の娘を授かって、平凡ながらに満足した生活を送っていました。

ところが父が四十代の働き盛りになると、とても忙しい日々が続くようになりました。そして、仕事に目を奪われていくうちに、余命を医者から告げられる事態になっていました。

「後のことは母さんがしてくれるだろう。ただ、成人した娘たちの姿を見ることができないのが残念だ」

言い残した父は、成道会の日の旅立ちました。

油断大敵

この一年間、外出自粛のため、おうち時間を活用して部屋の片付けに励んだ。本や衣類など未練は残るがほとんどと捨てた。その甲斐あって部屋は見違えるばかりになった。これで仕事もはかどるだろうと思つたのも束の間。日毎送られてくる

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

書類や書物など、ちよつと気を抜けばすぐ溜まる。気付いた時には元通りになっていた。

□□ナ禍も収束の兆しが見えてきたようだが、気を抜けばすぐに元に戻る可能性が残る。何事によらず気を緩めず、引き締めて、日々怠ることなく過ごすことが肝心だ。

K.J

ご祈祷札のおはなし

願い事の成就を祈つてご祈祷したとき、お札を授かりました。これは妙見大菩薩のご守護の証です。古くから「札守」と呼ばれており、場所や人のご守護を願い、家に貼ったり、仏壇・神棚等に安置したり、身につけて所持しました。

大きなお札を持ち歩くのはかさばるので、当山では所持できるよう小型の御守りを別に添えて御祈祷しています。

法華経茶話Ⅱ

十二支縁起⑥

さて今回からは日常の感覚では感知できない無意識の領域についてみていきましょう。

「無明」は、今までも説明した様に、四聖諦の理解がない状態を指す言葉であり、苦の根源です。「行」は、五蘊の「行」と同じで、身体で感受して心で思ったことに対して、無意識で何かを作りだそうとする作用のことです。

わかりにくいと思うので例を挙げて説明しますね。例えば道を歩いていて突然雨が降ってきたとしましょう。すると次にどんな精神的作用が働くでしょうか？濡れたくないとか、傘をささなきゃと思うでしょう。つまり雨というイメージが頭に浮かぶと、そのイメージに対して何らかの意思が生まれるのです。

この意思こそが「行」なのです。